

平成 25 年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市 町 村 名 東大阪市

実践研究校名 孔舎衛小学校

【公開授業】公開日：平成 26 年 1 月 29 日

対象学年：6 年

(教材・教科書名) Hi, friends! 2 (単元名) Lesson5 Let' s go to Italy	(本時の指導の目標) ・英語に親しみ、楽しんで活動することができる。 ・相手の行きたい国やその理由を聞いたり、自分の行きたい国を伝えたりする表現に慣れる。 ・外国の食べ物や有名スポットを知り、世界の人々の暮らし、日本との共通点や違いに気付く。
---	--

(本時の授業において工夫した点)

- ・ 社会科や総合的な学習の時間とリンクさせ、外国の食べ物や見たい物について事前に調べ、意欲をもたせた。
- ・ 尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむために、既習の Q and A を日常的に(朝の会)リズムに合わせて練習し、それを授業のウォーミングアップに使った。
- ・ いろいろな友だちと交流できるように、ペア練習の相手ワークシートに書き込む友だちについて、その都度条件を変えた。

(授業後を終えた教員の感想)

- ・ ALT の勤務の日や曜日の都合で年明け英語の時間がとりにくく、時間的に厳しかった。本来は一週間に一回なので、もっとゆったり時間を取ればよかった。
- ・ 今までインタビュー活動に慣れていなくて、児童が緊張し、本来の雰囲気が出せなかった。
- ・ Q and A の一問一答には慣れていても、Why?と聞き返される会話には戸惑いが見られた。積み重ねで簡単に習得できると考えたが、児童には難しかったようである。
- ・ 児童の興味を引くために、単語数や内容が多くなり、時間的にきつかった。もっと時間をかけてゆったり取り組みたかった。
- ・ 取り組み前は「外国に行きたいとは思わない」という子が結構いたが、取り組むにつれて、「行ってみたい」「食べてみたい」「見てみたい」という声がどんどん出てきたのがうれしかった。

【研究協議会】

(テーマ)意欲的にコミュニケーション活動をさせるための指導方法の工夫	(指導・助言者) 大阪府教育委員会 指導主事 的場 亮介 東大阪市教育委員会 指導主事 漆原 瑠美
------------------------------------	---

(研究協議会で出された意見)

- 日々の積み重ね（歌・Q and A など）は自信をもって活発に活動していた。
- 教師の英語を使う姿勢、児童の英語を受ける姿勢がよかった。
- 初めのデモンストレーションが難しく長かったが、児童がよく聞いていた。事前に少し説明するか、途中できるなどしてもよかった。
- 聞き返すインタビュー活動は難しかった。手がかりになる仕掛けがあってもよかった。
- クイズがやや難しいと感じたが、簡単だとすぐわかってしまうし、その国のイメージが固まってしまうがちなので、あえて児童が知らないようなヒントとすぐわかる SP ヒントを用意した。
- コミュニケーションの力を養うには、子どもが安心できる材料・環境・条件の整えること。「もっと知りたい」「話したい」という気持ちを育てることが大切。
- ゲームで盛り上げることが多いが、ゲームなしでインタビュー活動で授業が成立していた。
- カードの種類・数・カードに添える文字などは児童の実態を考えて入れるといい。
- 教師のパフォーマンスはモデルとして必要。目的をはっきりさせ、興味、関心をひきつける。
- 外国語の授業には、リズム、テンポ、教師の頭の中に計画が入っていることが大切。

(まとめ)

1. 難しい課題とたっぴりの内容であったが、児童の振り返りには「楽しかった」「もっと知りたい」「もっとやりたい」という声が多かったので、今後もこのような取り組みを入れていきたい。
2. 年明けの3時間目でスケジュールが非常にきつかった。もう少しゆとりのある時間設定・内容にしたほうがよかった。
3. ALT のクイズには大変関心が高かったので、今後児童が出題できればと考えている。さらに、一人ずつ最後はスピーチができるように計画している。